

科目名	履修学年	単位数	教科書	副教材等
数学Ⅱ	2	4	数研出版 新編 数学Ⅱ	数研出版 新課程 3 T R I A L 数学Ⅱ

評価の観点	到達目標および評価の内容
a 知識・技能	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
b 思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したりする力を養う。
c 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価の方法	
単元テスト、小テスト、課題等の提出状況、学習活動への取組などの総合評価となります。	

年間指導計画											
前期						後期					
月	予定 時数	学習内容	評価の観点			月	予定 時数	学習内容	評価の観点		
			a	b	c				a	b	c
4	10	第4章 三角関数	○	○		10	14	第3章 図形と方程式		○	○
5	8	第1部 三角関数 第2部 加法定理		○				○			
6	8 6	第1章 式と証明	○	○	○	11 12	13 15	第5章 指数関数と対数関数	○	○	○
		第1部 式と計算						第1部 指数関数			
		第2部 等式・不等式の証明						第2部 対数関数			
7	10	第2章 複素数と方程式	○		○	1 2 3	8 10 10	第6章 微分法と積分法	○	○	○
		第1部 複素数と2次方程式の解						第1部 微分係数と導関数			
		第2部 高次方程式						第2部 関数の値の変化			
8	10			○	○			第3部 積分法	○		○
9	6 12	第3章 図形と方程式	○	○							
		第1部 点と直線 第2部 円						○			
計 140											

※原則として一つの単元ですべての観点について評価するが、特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

履修上および学習上の留意事項

数学Ⅱの学習において、数学Ⅰや数学Aの考え方が基本となる場合が多いので、わからない問題に取り組む場合は、自分のわからないところを把握し、復習してから進めてください。また、数学Ⅱは数学Ⅰや数学Aのように、計算方法の暗記やただ答えを導けばよいのではなく、考え方を組合せながら答えを見つけていくことが多くあります。ひとつの公式を学習したら式変形して使えないか、答えの出し方以外の別解として有効な方法はないかなど、いろいろな見方で問題に取り組んでください。問題の言葉や語句を大事にして、問題に合った答えが出るように、研鑽を続けてください。